

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名京塚温泉グループホーム笑みの里暖輪

作成日: 平成 30年 3月 6日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	自主訓練を増加して利用者と職員が避難技術を身に付けられるように訓練して欲しい。備蓄の充実もお願いしたい。	頻繁に避難辞書訓練を行うよう計画を立てる。	火災、地震、洪水等この地区で起こりうる災害を想定した訓練計画を立て、災害状況に見合った避難計画を作成する。地域に長年生活している人たちとの話し合いを持ち、災害にあった人の意見を基に避難計画が作成できるよう今まで以上に広範囲で聞きとり資料作りを進めたい。	10ヶ月
2	15	職員は1人のみが検食者として同じ物を食べている。検食者は代弁者として検食簿を作成し、業者に伝えてほしい。	利用者の楽しみの中でも食事は上位にあるものだと考えます。検食者の率直な意見を業者に伝える。	検食簿の作成をはじめに、その内容を全体会議、スタッフミーティングで検討し感じた意見を明確に業者に伝えるようにする。	6ヶ月
3	5	センサーマット使用を常態化しないためにも介護計画に盛り込み、定期的を確認する等、ケアを工夫してはいかがか。	センサーマットに頼り過ぎないように工夫する。	センサーマット使用を常態化しないよう職員の個々の考えを把握し内容をまとめる。これを基に常態化しない方法を聞き取り、対策案を作る。誰でも対応できる方法、案をいくつか提出して最終的に、安全な方法で決めたい。	10ヶ月
4	12	早めに終末期対応について事業所としての指針作成し、全職員が共有して家族へ必要な時には示して欲しい。	終末期対応は、介護施設である以上は、切り離して出来るものではないので、家族に内容を伝えられるかたちで作成する。	今あるものをきちっとした内容に作成し、職員誰もが対応可能な状態にして共有し、必要な家族に伝えられるようにする。協力医の意見も取り入れる。	8ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。